



輝き続ける匠の技

旭真空株式会社

企業概要、社是

商号	旭真空株式会社		
所在地	本社	〒311-1537 茨城県鉾田市紅葉 693 電話 0291 (36) 2121(代) FAX 0291 (36) 2122 Mail : info@asahi-shinku.co.jp	
役員	代表取締役社長	大久保 功	
	取締役会長	大久保 一	
	取締役	大久保愛子	
	監査役	大久保早苗	
創業 設立	昭和47年4月 昭和49年4月		
資本金	10,000,000円		
工場敷地 工場建物	本社：4,554㎡ 本社：1,535㎡	第一倉庫：1,431㎡ 第一倉庫：667㎡	第二倉庫：1,788㎡ 第二倉庫：429㎡
従業員	男17名、女19名、計36名		
機械(設備)名	真空蒸着重合装置	2基	
	真空蒸着装置	1基	
	イオンプレーティング装置	1基	
	プラズマ重合装置	1基	
	ポリコールド	1基	
	純水洗浄機	1基	
	UV塗装ロボット	1基	
	UV塗装スピンドルライン(90m)	1基	
	熱乾塗装スピンドルライン	1基	
	熱風乾燥機	7基	
	エアークンプレッサー	5基	
営業科目	表面処理加工(真空蒸着・各種塗装・ハードコーティングによる加飾)		
ISO認証取得	ISO9001:2015(2017年4月)		
主要取引先	株式会社 小糸製作所 PF 株式会社 株式会社 青木製作所 コミー 株式会社	株式会社 バンダイナムコクラブ キヤノン電子株式会社 サンエツ工業 株式会社	
主要仕入先	東洋工業塗料 株式会社 株式会社 カミノテック 株式会社 クラフト	株式会社 吉田製作所 株式会社 板通 株式会社 Beamax	
取引銀行	筑波銀行 鉾田支店 常陽銀行 鉾田支店 足利銀行 水戸支店 商工組合中央金庫 水戸支店	東日本銀行 鉾田支店 水戸信用金庫 鉾田中央支店 茨城県信用組合 小川支店	



旭真空株式会社
社是

挑戦



旭真空株式会社
SINCE 1972

- 1942年 大久保茂夫(旧姓田口)が満州國鞍山市昭和製鋼所實科教習所を卒業
- 1948年 抑留を経て満州國から帰国し結婚、家族とともに酪農を営む
- 1950年以降 大久保茂夫が満州で一緒に教習所で学んでいた友人から、真空蒸着事業を勧められ、全くの未経験から開業準備を開始
- 1972年4月 大久保工業所として技術者を養成し、従業員12名で営業開始
- 1974年1月 増築にて真空蒸着装置、塗装設備を増設し、量産体制を構築
- 1974年4月 旭真空株式会社を設立
- 大久保茂夫が初代社長に就任
- 1975年7月 チェーンコンベア式、プロパン乾燥炉導入にて茶筒の生産を行う
- 1976年9月 時計分野の生産開始
- 1979年11月 ガラス製品の生産開始
- 1980年6月 新工場へ自動塗装機・塗装ブース・チェーン式乾燥機を増設し、生産の自動化を図る
- 1980年9月 イオンプレーティング装置の導入にてウイスキーボトルへの真空蒸着の生産開始
- 1984年1月 自動フロン洗浄装置の導入にて品質向上、作業効率向上を図る
- 1986年7月 全長55mスピンドルUV塗装ラインの導入
- 1989年6月 大久保一が二代目の代表取締役社長に就任
- 1990年8月 塗装ロボット導入・OA機器の生産開始
- 1993年2月 フロン洗浄装置から純水洗浄装置への移行
- 1997年1月 スピンドルUV塗装ラインを30m増設により、インラインでの2コートベイク化し、生産合理化を図る
- 2000年9月 ロボットUV塗装ラインの導入
- 2004年4月 第二工場の設立。平板専用UVハードコーティングラインの導入
- 2008年11月 ISO9001 品質マネジメントシステムの認証
- 2012年4月 トフコート専用スピンドル塗装ラインの増設
- 2012年5月 プラズマ重合装置の導入
- 2014年12月 塗装ロボット入替更新
- 2015年5月 増築によりプラズマ重合装置の増設
- 2016年8月 プラズマ重合装置の増設
- 2021年6月 大久保功が三代目の代表取締役社長、大久保一が取締役会長に就任

旭真空株式会社

未来へのメッセージ

真空蒸着事業を営む家に生まれ、物心ついた頃から、3つの上の兄と一緒に、ここで働くだろうと当然のように考えていました。兄はとても社交的な性格、一方、私は機械いじりが得意でしたが、人付き合いは不器用だったので、兄はよく「俺が外回りをするから、お前は現場だ」と言っていました。

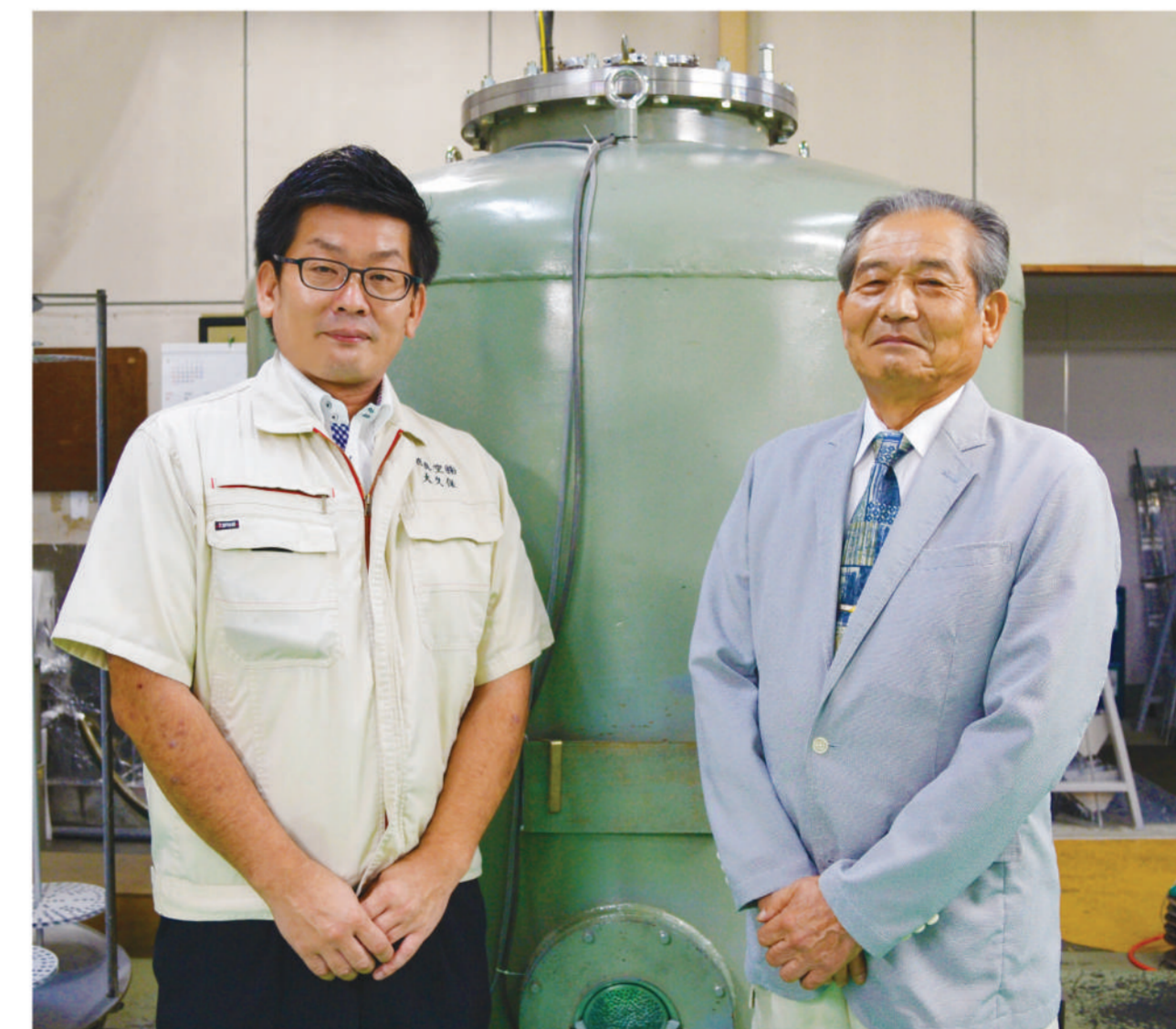
しかし、私が高校2年生の時、兄が事故で急死し、全てが一変しました。私は誰もが望むような生き方をしていたことと決意し、「今までの大久保功」を全て捨てました。そして常に、「兄ならどう考えるか、どう行動するか」と想像しながら、一步一步進んでいきました。

時に、自分が二重人格であるような感覚に陥りましたが、30歳を過ぎたあたりから、「事業を経営する上で、綺麗ごとだけでは許されない」と気づき、毎年目標を掲げ、徐々に自分自身をアップデートしていきました。

少し照れくさいのですが、父はまるで仏様のように、穏やかな眼差しで、いつも私を見守ってくれました。自由と責任は表裏一体ですが、父の姿勢には本当に感謝しています。

当社は、49年前に父と祖父が創業し、今では国内大手メーカーにも認められる技術力を保有するまでになりました。この「匠の技術」こそ、当社の誇るべき価値であり、未来に継承していきたいと考えています。そのためにも、現状に満足することなく、お客様第一主義を徹底し、品質や作業効率の向上に力を注いで参ります。

代表取締役社長
大久保 功



座右の銘

「反復 継続 丁寧」

「素志貫徹」

酪農を営んでいた父が体調を崩したことで、酪農から、真空蒸着という未知の事業を始めた時、私は、長男として、また、息子としての責務を果たすべく、21歳の時に農協を退職し、当社の立ち上げに奔走しました。

「設備が先か、お客が先か」という状況の中、高額な資金調達で茨城相互銀行(現筑波銀行)の支店長さんにはお力をお借りしました。創業時は大きな借金を抱え、人脈も営業力も技術力もなく、本当に苦しい時を過ごしました。その後、石岡市内の企業と時計部品の取引を開始したことで、徐々に事業が軌道に乗っていきました。

小糸製作所様やバンダイナムコクラブ様を始めとする大手国内メーカーと直接取引を可能にしたのは、功の行動力の賜物です。精巧な仕事求められる塗装の世界で、私たちの技術が認められたことは、大変嬉しいことです。

今振り返れば、非常に達理したスタートでしたが、当時の試行錯誤があったからこそ、しっかりと土台を作り、3代目に託すことができたと感じています。今後、社長の片腕になる人材が育ち、そして、4代目へと継承が叶えば、こんなに嬉しいことはありません。

社長や従業員たちには、次の50年、そして100年続くような企業として、常に成長し続けてほしいと願っています。ただし、健康には十分気を付けて、健やかな生活を送っていただきたいと、心から願っています。

取締役会長
大久保 一

